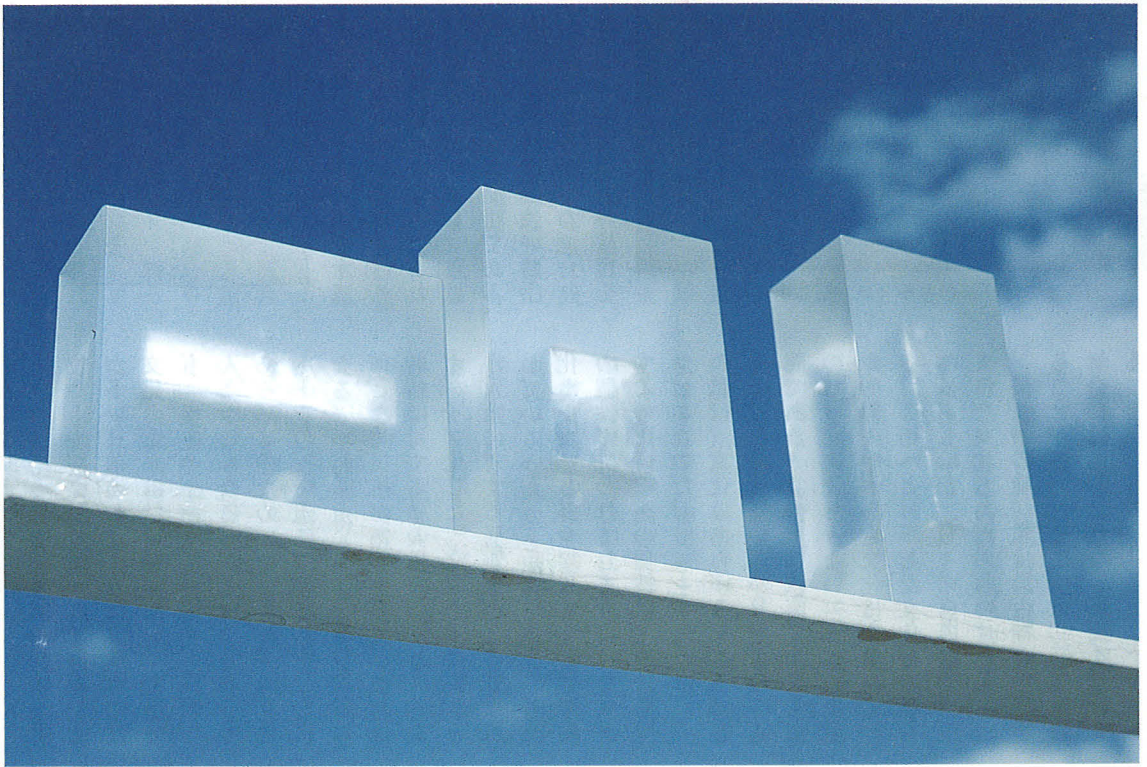


文化高知

2001年7月 NO.102



「窓」 泉谷栄理子

〈もくじ〉

コンビニホールから……………	岡林 護	2
「フクちゃんの潜水艦」の思い出……………	小野耕世	3
漂着物探歩記……………	黒原和男	4～5
IT革命の「光」と「影」(上)……………	鈴木堯士	6～7
万葉文芸学(三)……………	浜田清次	8～9
山に学ぶ、木に学ぶ③……………	福留将史	10～11
ささやかな幸せ……………	北村光甫	12
おんな三題 その一……………	真田順子	13
風俗歳時記・風伯……………		14～15

(財) 高知市文化振興事業団

コンビニホールから

岡林 護

今、桜座の駐車場で遊ぶ子供たちを横目に見ながら、ワープロに向かっている。家の外から聞こえてくる友達の遊び声に気を奪われつつ、いつころにはかどらない作文の宿題に取り組んでいた子供の頃を思い出しながら。

私が勤めている桜座は、いわゆる文化ホールである。より厳密に用途をいえば、コンサートや演劇を上演するための劇場ということになる。正式名称は、佐川町立桜座。またの名を、コンビニ(エンス)ホールという。コンビニで買い物をするように、ホールで手軽に文化を楽しむ。ホールを人々が集う街のたまり場に。そんな思いがこの別称を生んだ。 いったいどこがコンビニか。その一つが深夜営業である。といっても本物のコンビニのように二十四時間営業とまではいかないが、バンドやクラシックバレエ等が練習できる練



深夜まで灯りがとる〈コンビニホール〉

習スタジオと練習ホールは深夜十二時まで貸し出しをしている。 もう一つが使用料金の安さ。これは詳しくは書かないが、アレツと思っていただけのコンビニ価格である。いずれにしても、利用者の使い勝手に配慮した結果がこうなった。 色々な意味で、敷居が低い桜座を

目指している。 うちに来る郵便物の宛名には「文化ホール桜座」と書かれていることが多い。前述したように、名称には文化ホールは付いていない。電話でも「桜座ですが：」「はあ、桜田さん？」こんなことがしょっちゅうである。このため、やむを得ず「文化ホールの」を頭につけて話すことになる。やむを得ず、と書いたのは、何となく抵抗があるからだ。これは、名称に対する私の思い入れとステレオタイプ化した「文化ホール」という言葉に対する異質感が、多分作用しているからだと思う。何か、「文化ホール」と言ってしまうと、桜座の個性が失われてしまうような気がするのだ。桜座の個性は、やはりコンビニなのだ。

私は、文化はあらゆるところに存する、と考えているバリアフリー人間である。雲の上に鎮座ましますものだけが文化じゃない。人々の生活や労働の中からも文化は生まれている。芸術へと昇華した文化の結晶もすばらしいが、日々の営みの中で生まれた文化もいと美しい。 催し物の時、私は舞台袖を担当することが多い。そこでは、通常の表舞台にはあらわれない場面を目にすることができ

クラシックの公演で、中央から招聘した一流のアーティストが、出番前に緊張感をみながらせ何度も大きく深呼吸をしている。ステージに立つとすばらしい演奏で観客を魅了する。田舎ということでの手抜きは全くない真摯な姿勢。 カラオケショーで、歌い終わった後、(どうや)という顔で舞台袖に下がってきたおじさんに、周りが「良かったねえ」と声をかける。そのおじさんは手を振りながら「ぜんぜん」とか応えながらもまんざらでもない表情を浮かべている。 たまらなく好きだ。こんな人間的な光景が。この瞬間に桜座の文化が生まれている、と私は舞台袖でほくそ笑む。

冒頭で触れた桜座の駐車場を公園代わりに遊ぶ子供たち。放課後とか土日によく集まって自転車乗りやボール投げに興じている。その光景を眺めていると、この瞬間に桜座の文化が……、と胸がじんとなる。

感傷に浸るおじいさんみたいと、笑わないでほしい。私は、桜座に関わるすべての人々が桜座の文化を生み出してくれている、と心底思っているバリアフリー人間のだから。 (おかばやしまる／佐川町立桜座館長)

「フクちゃん」の潜水艦「思い出」

小野耕世

五月十二日の土曜日、高知市立自由民権記念館で、私はマンガ家の横山隆一氏についての講演をした。そのなかで、私は自分のアニメ体験についても、少し触れた。どうも、私が生まれて初めて見た映画は、まだ幼児だった私が母に連れられて東京の映画館で見た「フクちゃん」の潜水艦「(一九四四)」だったような気がする。それが私がかすかに覚えている映画の最初の記憶なのだ。そして、潜水艦の台所で、アラクマさんが包丁で大根を切っている場面を思い出す。その場面には陽気な歌が流れていた……。

後になって私は、このアニメが海軍省後援で作られた戦意高揚映画だったと知ることになる。それを監督した持永只仁氏とも何度もお会いするようにになって製作の裏ばなしをお聞きした。この映画のプリントは、

現在、東京の国立近代美術館フィルムセンターにあり、昨年八月の広島国際アニメーションフェスティバルでは、その前年に亡くなられた持永氏を追悼して、久びさに上映された。しかし何度見ても、私の印象に残るのは、フクちゃんの潜水艦が敵の空母を魚雷で撃沈させる場面よりも潜水艦の台所風景なのである。私より先輩で、小学生のころこのアニメを見ていたというマンガ家に会ったことがある。「なにしろあの潜水艦のなかには、肉も野菜もチョコレートもなんでもあるんだ。そこで流れる歌も、食べものの名を次つぎと詠み込んだ歌で、いまでもその部分を覚えてるよ」と目を輝かせて言う。すでに戦時下で食糧事情が悪化していた日本の少年の目には、潜水艦に積まれた豊富な食べものがうらやましく、その場面は輝いて見えたのだ

ろう。「この場面に感動して、ぼくの兄貴は海軍にはいったんだよ」とそのマンガ家は言った。 「船底いっぱい荷を積んで……」と歌われるこの潜水艦の歌を歌ったのはコメディアンの古川ロッパで、後にロッパ氏は「あんな歌いにくい歌を歌わせやがって」と、横山氏に冗談を言ったそう。その横山隆一氏の手になる「フクちゃんの潜水艦」の絵本の出版が企画されていたが、空襲で出版社が焼けてしまい、出版には至らず、結局ゲラだけが残った。そのゲラは、高知に移された横山氏関係の資料のなかにある。

鎌倉の横山家を訪れ、このアニメの思い出を話すと、「わたし、その潜水艦の歌、ぜんぶ覚えてるわよ」と言っけて口ずさんでくださるのが、横山夫人の澄さんだった。いつか澄さんの歌うその歌を録音させていたどうか、歌詞をメモしておこうと思っていたのだが、私が高知でこう話した話をした二日後、五月十四日に入院中だった横山夫人は亡くなられてしまったのである。

夫人は横山氏同様、ユーモア感覚にすぐれたやさしい人だった。そして、ものを見る適確な目を持っておられた。高知新聞に連載されたエッセイ「鎌倉通信」を書くときも、い

つも原稿を夫人にまず見せ、わかりにくい点がないか聞き、必要があれば書き直したのだと横山氏からうかがったことがある。お悔みに鎌倉を訪ねると「また仕事を始めてるんだよ。気がまぎれるからね」と横山氏は言われた。「カッパの水墨画を描いて、展覧会をしようと思うんだ」。絵を描き続けることで、夫人の亡くなられた空白に立ちむかつておられるようだった。緑の美しい横山家の庭には、なお夫人のやさしい目がおそがれているのを私は感じた。 (おのこうせい／映画マンガ評論家・作家)



5月12日、高知市立自由民権記念館にて

漂着物探歩記

黒原和男

渭南の海岸を訪れた江戸後期の文人、川村貞佳は、龍串での記に次の詠歌を残している。

立帰り又拾はばや波よする

櫻の浜の梅のはな貝

渚の美しい情趣と、去り難い心情が伝わる一首である。このような和やかな浜辺の自然環境は、現代の土地開発や、防潮工事で、多くコンクリートに覆われてしまい、やっと残存した処々の渚も、産廃物や、流木や、使い棄ての雑貨物などが集積し、すっかり痛々しく様変わりしている。

漂着物は国内はもとより、遠い国々からも海流に運ばれて、この島の海岸に漂着する。その量は日増しに多くなり、各地域の迷惑な負担となつていく。漂着物には自然物と人工物があり、後者には生物の生態系に危害を及ぼす物質も含まれており、数年後の状況のことを想像するとノイローゼ気分にも襲われて憂鬱である。

しかし漂着物の中には科学・生物学・環境・歴史・生活・文化等々の広範な分野に関連する様々な標本的物体が混じつていて、その中から興味ある物を選び出すことは、少なからぬ苦勞を伴うことではあるが、漂着物についての知識の修得ができ、さらにはエコロジ思想の高揚につ



写真1 海岸の漂着物 (遠景は白鷺)



写真2

ながる機会ともなる。それに海辺の散策は健康的であり、お目当ての漂着物を見つけた時や、予想もしなかったお宝に出会った折々には、えもいわれぬ楽しさがあり、物量による心理的圧迫感からも癒される思いである。

私は、過去四十年以上にわたる長期間を費やして、貝類標本の収集に努めてきたが、現在はその延長として漂着物に関心を寄せている。これは海岸の環境変化が理由であり、致し方ない成り行きでもあるのだ

が……。

土佐清水港外の尾浦崎の海岸は、私は、過去四十年以上にわたる長期間を費やして、貝類標本の収集に努めてきたが、現在はその延長として漂着物に関心を寄せている。これは海岸の環境変化が理由であり、致し方ない成り行きでもあるのだ

辺に一メートル程のアカウミガメが産卵にやってくる、海に帰れぬまま死んでいるのを見たことがある。また近年には飛来数が激減しているというミズナギドリや、死骸が漂着していることもある(写真1・写真2)。

心痛めるような物体の傍に、真新しい磯釣用の浮きかたがっている。取り上げて見ると釣り名人のサイン入り高級品であり、思わず「いい仕事をしているナ」と呟きたくなる。

漂着した廃棄物の中で玩具を見つけると一人で微笑むこともある(写真3中)。中国製プラスチック玩具の七星剣(写真3上)は裏面に龍の浮彫り図柄がある。龍を象形した文字「巳」は「節」に通じ、符節という割符の意味があり「大字典」によると、「一方を朝廷に止め、一方は外に使用する者これを携えて使臣たるの證となす」とある。また「七星」は旅の方向を知る天体でもある。

先年、中村市初崎の四万十川河口にある貴船神社から、室町時代の七星剣が発見された話題となった。

応仁二年(一四六八)、後土御門帝の勅定により、前関白一條教房は土佐幡多の庄に下向し、当時明国に派遣されていた室町期第十二次の貿易船の帰国に対処していた。船団は応仁の乱の兵禍を避けて、九州南を迂回し、文明元年(一四六九)八月十三日土佐幡多の港に帰着。教房はその知行を果たして

いる。このことは「大乘院寺社雑事記」や「大日本史料」に明白に記されている。

中村市の貴船神社の秘宝となつている七星剣は一條教房所縁の遺品である可能性が極めて大きいといえる。土佐清水港の奥まった場所に唐船島という地名がある。「唐」は中国を大まかに表す意もあり、室町時代の遣明貿易に詳しい当時の史料「大乘院寺社雑事記」にも、明国へ派遣した船を「唐船」と記しており、この記述の中に

「清水は南海の津なり」とあり、往時の遣明船の基地港であったこともわかる。唐船島の周辺には、船に因む地名の、大碇・小碇・舵山・御古倉・遠見崎などの地名が残っており、船が水を取り入れた場所の港に面した清水谷は「清水」の地名の起源といわれ、また港外の水谷浜からは大波の後に今でも中世の陶磁器片が打ち上げられ、歴史の往事を偲ばせる(写真4 外側の陶磁器片)。写真4の中側は明治以後の漁具のガラス浮



写真4 波が打ち上げた陶磁器片とガラス破片・ラワン材の器 (1~4 いずれも土佐清水市尾浦崎にて)

きの破片で、これはエコ・アートの素材として子供たちと一緒に集めたものである。

様々な漂着物については、迷惑ゴミとしての観点だけでなく、自然環境の保全を基とした有益な処理策が多くの人々の参加によって、多面的に進められることが望ましいのではないだろうか。

くろはらかずを/画家・土佐清
水市在住

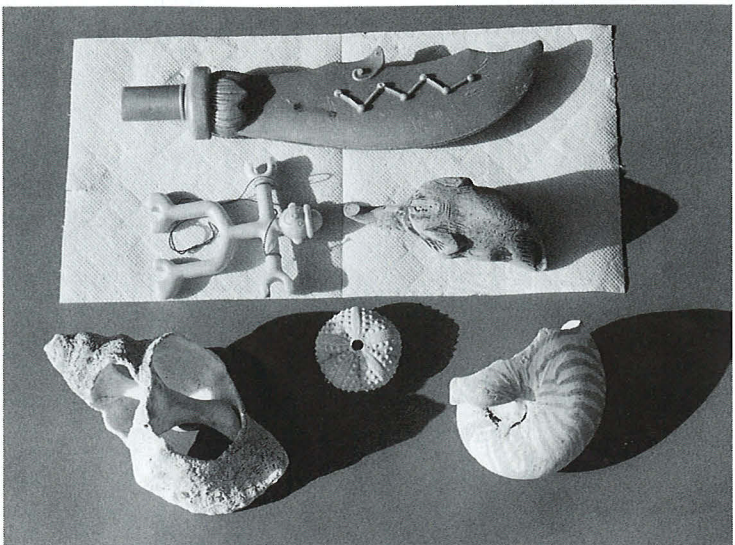


写真3 プラスチック玩具と貝殻

◎押し寄せるITパワー

不況の時代を何とか乗り越えよう
と必死になっている日本経済は、否
応なしにIT（情報技術）パワーが
爆発する二十一世紀に突入した。
「デジタル革命」「インターネット革
命」といった言葉でも呼ばれるよう
に、この力は革命的なものになるこ

IT革命の「光」と「影」(上)

鈴木堯士

とは間違いない。

コンピュータと通信が融合したIT
革命の衝撃は、まさに「現代の産
業社会に落ちた巨大隕石」（出井伸
之ソニー会長の言葉）と言える。

急速に発展するIT革命が、世界
中で経済面・産業面・軍事面・政治
面・教育面・そして生活などの一般
社会面に、今まで想像だにできなかつた大変革をもたらそうとしている。

さらに重要なことは、IT革命の

進歩の速さである。ドッグイヤーと
言って、犬の方が人間より七倍くら
い速く歳をとるのになぞらえて、変
化のスピードが速いことを表す言葉
がある。ドッグイヤーで換算したら、
今日の情報技術の進行は、三年で昔
の技術の二十年に当たる進歩に匹敵
する、想像もできないほど急速な変
化がやってきている。このことはわ
ずか三年前の知識が陳腐化して役に
立たないとか、三年前に購入したコ
ンピュータなどの情報機器がもう古
くなって使いものにならないとい
うような異常現象を起こしている。

◎IT化への対応で大きな日米格差

一九九九年は日本にとって、技術
革新に国ぐるみで取り組む元年とも
言われ、故小淵元総理が中心になつ
て「ものづくり」が政府の方針の重
要な柱になっていた。ところが森前
総理にバトンタッチされた途端、ド
ラスティックな変化が起こった。森
前総理は「ものづくり」を忘れ（？）、
「ITサミット」と言われた沖繩サ
ミット以来、IT基本法の成立、IT
戦略会議の設置、e-Japan
戦略など協目も振らずにIT、IT
へと突っ走っていた感が強い。小泉
総理に交替し、「聖域なき構造改革」

を政策の主要な柱と位置付けている
ようであるが、「IT」と「ものづ
くり」にどのように取り組むのかじ
つくり見守っていきたいと思う。す
でに取り返しつけないことではあ
るが、小淵元総理がITへの取り組
みを当時少しでも進展させておけば
アメリカとのIT格差は現在ほど広
がらなかつたのではないかと残念に
思う。

アメリカ経済は、最近やや陰りが
見えるものの、IT革命により史上
最長の好景気を維持している。クリ
ントン前大統領が予算教書で「二〇
〇一年度から十年間で、アメリカの
財政赤字は二兆九千億ドルに達する
だろう」と極めて強気な発言をして
去っていった。こうしたアメリカの
好景気を支えているのが、言うまで
もなく電子経済（eエコノミー）で
ある。また、アメリカでは百二十万
人がインターネット関連業務に従事
していると言われ、この活況が新し
いIT革命の源泉になっている。

アメリカ主導のIT革命が、世の
中のこれまでの「常識」を変えつつ
あること、IT革命に対応できる体
制を早急に確立する必要があること、
IT産業がさまざまな分野、特に製
造業の経営・生産・営業システムを
改変する勢いがあること、グローバ

リゼーションとIT革命に対応でき
ず先送りしか考えないような企業や
組織は淘汰される運命にあること、
生活の中へIT化が必然的に登場し
てくること、など現代社会の中でIT
化の必要性を否定する人はいない
と思う。

◎日米におけるeコマースの状況

ITではアメリカに少なくとも二
年半は遅れていると言われる日本で
も、インターネット人口が現時点で
三千万人を超え、本格的な電子商取
引（eコマース）の時代を迎えよう
としている。よく知られるように、
eコマースは大きく二つに分けられ
る（B to CとB to B）。

第一の「B to C」は企業と消
費者を結ぶeコマースで、旧通産省
の調査によれば、この分野における
日本の電子商取引の規模は、二〇〇
二年には二兆円を超え、二〇〇四年
には六兆円に達すると予想している。
このeコマースは消費者と直結して
いるため、個人的な消費生活やライ
フスタイルに与える影響は大きいも
のの、経済全体に及ぼす影響はマス
コミが取り上げるほど大きくないと
思う。つまりネットによる商品購入
がたとえ増えても、その分既存店舗
の売上が下がっては、トータルの経

済はそれほど拡大しないと考えられ
る。

一方、第二の「B to B」（企業
対企業）市場での取引は、日本では
二〇〇三年には六十八兆九千億円に
達すると予想されている。これと比
較して、アメリカにおける「B to
B」取引は二〇〇二年には二兆ドル
以上、さらに二〇〇四年には七兆三
千億ドルまで拡大すると推定されて
いる。七兆三千億ドルといえば、ア
メリカの現在のGDPにも迫る巨大
な市場規模なのである。例えば、ア
メリカの自動車産業の三大メーカー
は二〇〇〇年二月に、インターネット
を使った部品の共同調達を構想を
発表した。この構想が実現すれば、
世界最大規模の「B to B」の登
場となる。このように、日米の格差
はあっても、やはり「B to B」
ネット取引は、企業と消費者の取引
に比べてけた違いに大規模である。

◎ITを生かすための効果的活用へ
の模索

わが国でも「ブロードバンド」
（高速広帯域通信）の発達、放送と
通信の融合、携帯電話の驚異的な普
及、金融・バイオ・医療・福祉介
護・物流システムなどのIT化が、
生活様式を大きく変えつつある。

しかし、これほどさまざまなIT
時代を迎え、二十一世紀がどのよう
になっていくのかについての正確な
予測など誰にもできないことも事実
である。だからこそ、方向だけでも
的確に読み取り、あとはスピード感
あふれる経営・生活方針を立て、試
行錯誤を繰り返すしかないと考え
あらゆる企業にとっても新しいビジ
ネスチャンスが到来したことも事実
なのである。

最近IT化・国際化の進展から、
大企業・中小企業を問わず、企業の
二極分化（勝ち組と負け組の顕在化）
が起こっている。また、IT化に伴
い社内でも経営者と現場がLANな
どで直接結ばれ、「中間管理職」の
必要性が失われつつあるという実態
もある（中抜き現象・フラット化）。
さらに付け加えるならば、今日のIT
化は不特定多数の人々との情報交
換（双方向性）を可能にしている。
各企業とも従来型の旧態依然とした
人的ネットワークから抜け出し、人
並み以上の「情報力」を持ち、より
普遍的な情報ネットワークによる共
有システムに変換する課題解決が急
務である。

（すぎたかし／ポリテクカレッジ
ジ高知校長・高知大学名誉教授）

万葉文芸学(三)

浜田清次

七

高新文化教室の講師を頼まれて、三十年ぶりに万葉集の世界に復帰したわたくしは、まるで水を得た魚のように、いや、雲を得た龍のようにと言いたいほどに、威勢よく講義を展開したことでした。

青春の日から、とりわけ終戦直後から、真剣に研鑽して来たものを傾けて、柿本人麻呂を語り、山部赤人を語り、山上憶良を語り、大伴家持を語り、また東歌を語り、防人歌を語る喜びには、格別なものがありません。これら尚友の古人も、胸襟を開いて交わりを結んでくれたように思います。

それに聴講の方々がとっても熱心で、私語をしたり居眠りをしたりする

る者は、ただの一人もなく、会場には常に勉学的熱気が満ち溢れていました。わたくしがそれに叱咤激励せられて、老醜を転じて老秀とする思いを抱いたことも事実です。その結果、聴講生は二百十八人の多きに達し、空前のレコードを作ったことは、講師冥利に尽きる幸せでした。

わたくしの講義は、万葉集の中から秀歌を選んで、その真と美とを明らかにしようとするものでした。

真というのは、注釈的真的意味です。その真を明らかにするためには、難しい言葉や文法を現代文同様に理解できるようにすることが必要です。それは古典を扱う以上、避けて通れない肝要な作業ですから、ゆめおろそかには出来ません。そこでわたくしは、広く諸注を参照したばかりで

なく、しばしば創見を提出し、口語訳の洗練にも腐心しました。秀歌の訳がまずくては、文芸学の名が泣くではないですか。

講義は好評、いや大好評で、ぜひ本にできるようにと熱心に勧めて下さる方があり、高新企業も出版を約束してくれ、高新企業も出版を約束して、結局それは練習に終わりました。テープおこしに大きな費用のかかることがわかったからです。

美というのは、文芸性、文芸的妙味のことです。その歌のどこがどうよいか、人々を感動させるゆえんのものは何なのか、それは万葉集が歌集として最も純粋に文芸である以上、研究の第一義でなければなりませんから、その究明に全力を傾注したわけです。わたくしはかねがね万葉文芸学の樹立を念願としていただけに、使命感に燃えて一層がんばった次第であります。

美といたっては、文芸性、文芸的妙味のことです。その歌のどこがどうよいか、人々を感動させるゆえんのものは何なのか、それは万葉集が歌集として最も純粋に文芸である以上、研究の第一義でなければなりませんから、その究明に全力を傾注したわけです。わたくしはかねがね万葉文芸学の樹立を念願としていただけに、使命感に燃えて一層がんばった次第であります。

八

山本さんはわたくしの大ファンで、かねがね定年後はわたくしの助手をしたいと言われていたようですが、ここに至って一念発起、テープおこしを始めて下さったのです。そして、万事を放擲して事にあたり、何と、

と訓まれていますけれども、これはただだけではありません。わたくしは万葉文芸学の立場から、「我にこそは、告らめ 家をも名をも」でなければならぬと考えます。

さて「万葉文芸学」ですが、それは文字通り万葉の文芸性を探究する学問です。以下、わたくしがどのよう

と訓まれていますけれども、これはただだけではありません。わたくしは万葉文芸学の立場から、「我にこそは、告らめ 家をも名をも」でなければならぬと考えます。



「浜田万葉記の会」での筆者の講義風景

ります。ここでちよつと断っておきますが、『万葉集を読む』という書名は、初めからそう付けられていたものではなく、いざ本にして出版するという段階になって考えついたものです。しかも、すぐそう一決したわけではありません。んで、わたくしは『万葉秀歌抄』という書名に長く執着していました。それが結局『万葉集を読む』に決着したのは、何を対象として扱っているかという心の外的問題よりも、「読む」という心の働きのほうに重点を置き

わたくしがこのように行を改めて揭示したのは、万葉の歌が原則として五七、五七と連続するいわゆる五七調であることを、一目瞭然に感得してもらいたいからです。これは古今集以後の歌の七五調に対して、極めて重要な万葉の特徴ですから、皆さんもちゃんと五七を一息に読み、決して七五にならないようにして下さい。わたくしはこれを万葉文芸学の第一歩だと考えています。

口語訳のあり方については、わたくしは一言とでも言いたいものを持っていません。それは直訳意識の域を越えて、その作品の肌触りを伝える文芸訳でなければならぬ、というのです。そうした考えから、この歌の口語訳はこう付けたいと思

二千六百枚もの原稿を作成せられたのです。

それは正に骨身を削る献身的な協力で、わたくしはこれを有り難い神の恩寵、生涯の至福、と感佩しています。あえてここに特記するゆえんであります。

かくて完成した上下二巻の書、これが『万葉集を読む』であります。

すなわち「万葉文芸学」の結実であるのです。

たかっただからです。

「読む」はむろん味読するの意です。熟読玩味することであり、ただ単に黙読し音読するものではありません。さらに、暗唱にまで進めてほしいものです。そうやって初めて、その作品が自分のものになったと言えるのです。

九

「我こそは、告らめ 家をも名をも」です。これは一般に「我こそは、告らめ 家をも名をも」

「我こそは、告らめ 家をも名をも」

(二〇〇一、五、三二)



山は人を育てる

福留将史



森林環境教育はこうあるべきだ。

以前にこんなことがありました。ある上司が酔った勢いで「福留、おれは山を育てる意味がわからん。教えてくれ」というのです。すかさず私は「ええですか。山を育てるとは人を育てることです」といい返したのを思い出します。「おまええいとをいうねや」。酔っていると誰でもこんなになるのでしょうか。

私はその時、すっかり高知市の山々を見据えて、ある決意をしました。それは、これからの森林環境教育についてです。このテーマについてどうしてもやりたくなくなってしまったのです。

私が入っている、樹木の外見から内側を見抜き一本一本の木の性格を



どんぐりの芽はどこから出てくる？——子供たちの目が輝く

なものになるならば誰が反対なんかするものか。このまま環境破壊が続いて人類が減んでも樹木はこの地球上で永遠と生きていくことでしよう。人間にいじめられてさらに強くなつて。そういう長期的な視点でものを見ることをわかってほしい。

知る育林方法は、ある面で効率が悪く、生業としてはやっていけないと思います。でも損得勘定だけで森林をとらえていいものか？ しかも、日本の急峻な地形で「猫の額」ほどの山林を、ほれ作業効率だのといつてやってみても所詮海外のそれとは太刀打ちできない。だのにいっせいに植林を勧められて、今度は山の間伐にせいでし水源の涵養に努めなさい、とこうくるわけです。根底から間違っていると思う。また、森を育てることは利益優先で置き換えてはいけないことだと思ふ。極論になります。日本は海に面しているため、もし、人工林を一齐に切つてしまつても、すぐに雑草が生え広葉樹が繁茂する条件を備えています。

たのか。隣の木はどうして大きくなるのか。木は対してできることを考えると一本一本の木が必ず話し掛けてきますよ。樹木は私たち人類よりずっと古い時代から生きている先輩ですから、今回がこの連載の最後ですが、木

だからといって一齐に広範囲の皆伐を勧めるのではないのですが。さらにいえば、高知は森林県で八十四パーセントの森林率だから毎年これだけ切つても木の成長量分だけ切れば蓄積は変わらないとコンピュータが試算する。でも本当に木は計算どおり成長するのか？

なにか今の教育の一端を見ているような気がします。皆が同じことを学習し同じことを詰め込み、同じ服を着せ同じことをやらせる。木というの是一本一本、成長の度合いも違うしもつといえは性格も違う。それと同じ品種を大量に植え同じやりかたで人工林を仕立ててきた。で、どうなつたか。木が売れん。安い。先はすでに見えていたのではないか。

タイトルの「山は人を育てる」は、私にとっては、祖父の教えを学びました、子供に伝える、それだけです。山を育てるには多くの言葉はいらない。まして技術もそれほど必要ではない。一本の木と真剣に向かい合つて木の使い方を見抜いて使い切ることです。そして、どうも私のいっていることがわからない人は、なるだけ山にいつて木をみつめてみましょう。どうして根元が曲がってしまったのか。木の幹が丸くなく楕円になつてしまつたのか。隣の木はどうして大きくなるのか。木は対してできることを考えると一本一本の木が必ず話し掛けてきますよ。樹木は私たち人類よりずっと古い時代から生きている先輩ですから、今回がこの連載の最後ですが、木



筆者手づくりの「きこり道具の館」がこの春オープンした

に対する熱意が伝わったのか、私のスケジュールは講演や小学校の授業まで入ってしまった。さらに多忙になつてしましました。ある小学校では毎週「木」の勉強です。全部で三十週を超えます。こんな嬉しいことはありません。すでに三回目が終わりました。初回は羽子板に使う、むくろじの話。実の皮はサポニンが含まれていて石鹸の代用品となります。二回目は「どんぐりクイズ」。三回目は「世界一の樹木」。クイズは子供たちにかなり受けるのでまたやってみようと思う。ある人からはそんなに受けて大丈夫かえ！といわれています。私にとっては絶好のチャンスで教育面での実績もあがります。こんな嬉しいことはない。そしてこの原稿も。ハードとして物を作るより、ソフトとして人の考えをまとめる仕事のほうがやりがいもある。というところで、ここで問題です。ほんとうにある木の名前は次のうちどれでしょうか？ ①バリバリノキ、②ビリビリノキ、③ボリボリノキ、

答えは……自分で植物図鑑で調べ下さい。でも本当にバリバリ木が燃えたり割れたり、さわるとビリビリしたり、ボリボリかゆくなつたり……これも経験かな。やればわかる。答えはいけません。どこかでお会いしましょう。木に関する仕事で必ずどこかでお会いできるでしょう。そのときはもつと難しいクイズを用意しておきます。

「山を育てることは人を育てる」。この言葉は私の最大のテーマであり使命であります。高知の子供は森の中で楽しく遊んで大きく育つてほしい。人の生命は一本の木を植えることからはじまります。それは、夢や希望を植えることなのです。私の小さな願いです。

(ふくとめまさし)

みんな安易に儲けるほうに走って結局損をした。何もしなかつたうちの山はぼつりぼつりと残っていた木が今、それぞれ百年前後に育ち、一本数十万というまでになった。エイも悪いも私はこれを「ほつたくり」と呼んでいる。別にほうつておいたわけではないが、それぞれの木の成長を見守り続けた家族があった、それだけだ。戦後奨励された枝打ちや間伐の技術は私達にだけだけ伝えられたのか。枝打ちしてなかつても木が古くなれば元あつた枝も木の内部の圧力でつぶされ針のように消されてしまふのですよ。大木の板に節のある木を見たことありますか？ そんなにないでしょう。それにへたな枝打ちは木の内部に腐朽菌を呼び込む結果になり木にとっては迷惑な話です。木にとっては人間のすることなどあさはかなことなのです。最近、林道からの距離によって経済林と環境林の二つに分ける考え方ができました。やはりここにも損得の考えや範囲の狭い考えが見えます。

森林はそれだけで水源涵養や土砂流失防備の機能を備えている。もつとマクロな目で森林をとらえることはできないか。いわゆる水源税や地球規模でとらえれば炭素税。使途がはっきりして私たちの生活が快適

ちやかな幸せ

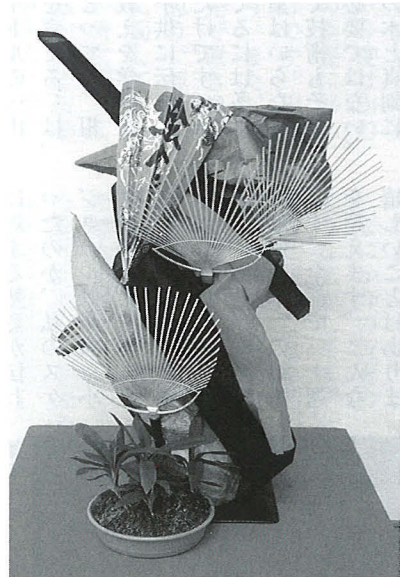
北村光甫

買い物に出かけた街角で偶然の出会い。お互いにお目にかかれてよかったですと言葉を交わしながらお茶でもご一緒に小さな喫茶店に入った。隅の方に陣取って落ち着くと洒落たケーキとコーヒーが運ばれてきた。きつと友達のAさんが注文したのでしよう。さりとてかきあげた髪を後ろで巻き上げ和服を然りげなく着こなしているAさんが私は大好き。しばらくしてAさんが、去年古代の蓮の花(大豊町定福寺)を見に行つた、そのときの感激が忘れられず今年も二、三人で行くことにしていると終始笑顔。それもそのはず、蓮の花は悟りの象徴と言われていますので魅力たっぷりです。

もうずいぶん前になりますが私も蓮の花便りを耳にすると、あちらこちら訪ね歩きました。場所は覚えていませんが静かな広々とした池一面天鵝絨のような青い葉が重なり合っ

て繁り、葉の中央に溜まった水滴が風の吹くたび右に左にコロコロ転がり生きもののようにも見えませんでした。顔を上げあたりを見渡すとところどころに美しい花が咲き、あたかも浄土の世界へ迷い込んだような雰囲気を感じたことでした。

神様がつくられた自然界の花はどのような花でも早咲き、最盛り、名残(遅咲き)がありますのでずいぶん長く楽しむことができます。蓮の花も例外ではありません。また、花卉が散りましても実が残っていて、子孫を絶やさないための準備がちゃんとできています。さらに成長してゆく実の色や形も、水中なるが故に面白いのです。私は折にふれての



観察に過ぎませんが、自然のいとなみの偉大さに心うたれるものがあります。この大切な自然をいつの間にかやら人間が開発という名のもとに容赦なく、また果てしなく削り崩している。そこらにいた動物や植物が、いづらくなつたよと悲鳴をあげているように思われなりません。大袈裟な言い方もしませんが、これから先お互いに共生し合える自然は世界遺産に登録された所だけでもしれないと心配です。

二月の寒い日でしたが、高須の美術館に行き「冷泉家展」を拝見しました。春夏秋冬、自然の恩恵に深く心をよせ、その時々季節に合わせたしつらいの中で節目節目の祭事をしてらさない、あわせて自然への感謝も捧げられている。仲秋の名月ともなれば真塗(黒色)の桶に水を浸し

その桶を長い廊下の中央に据え置く。やがて桶のなかの水鏡に映し出された名月を眺めつつ歌を詠む、等々まことに優雅な日々をたしなみにうっとりさせられました。

只今は変貌著しい時代。どのような所にも冷暖房は完備され、職場に遠くても近くても気にはならない車社会。ボタン一つで作業はスムーズに終わる。その便利さに皆喜んでる反面、地球規模に広がる排気ガス被害やダイオキシン汚染、そして毎日出る莫大なゴミ処理問題。挙げればきりがありません。

今や官民を問わず否応なしにIT革命の洗礼を受けている社会です。人々は、機械に向かつて黙々と働き続けています。それを迎える家族も一生懸命です。

その労をねぎらうため、旬の食材にこだわりを持ち愛情のこもる味つけに心を砕く。さらには季節の花を一輪でも食卓の上に添えれば、話題も豊富になり団欒の後はそれぞれ自由羽根を伸ばすことができる。

ごく平凡な毎日ですけれど、朝は誰よりも早く起き、外に出て花の水やりから私の日課が始まります。

きたむらこは／社団法人高知(県華道協和会理事長)

菜の花診療所を様々な人が訪れる。そつと秘密を預けに来る人、励ましを求めて来る人、心の迷宮で道を失った人。また、必要とする薬を胸を張って取りに来られる人も多い。薬を使つてくださる人はいいなと思う。彼らは今の自分を知つていて、より伸びやかに毎日を送るために薬を道具として使うことができるからだ。

私の仕事は彼らに上手に使われることだ。杖になり、盾になり、時には矛を研ぐ砥石になる。ささやかなオアシスになることもあるが、重荷を捨てていくゴミ箱であることが一番多い。

今日は、夫におまえは病気だから診てもらつてこいと言われて来た女性の話をしよう。

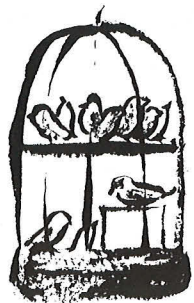
彼女は二十八歳。子供が二人いる。専業主婦である。最近イライラして子供を叩いてしまうというのだ。夫はサラリーマンで、夫の実家の隣に住んでいる。小姑も近くに住んで女たちは家業の手伝いをしてる。当然彼女も手伝いに行く。賃金はない。姑が子供たちの名義で貯金してくれるのだそうだ。彼女はそれが納得いかない。なぜ私は賃金をもらえないのだろうか。手伝いに行く代わりにパートに出てはいけないのだろうか。

夫の帰りは遅いし、こんな話を好まないのはわかっている。県外人の彼女には友人もない。ずつと自分の思いを話す機会はなかった。感情の抑えがきかなくて子供に八つ当たりする自分が情けなくてたまらない。実際には、彼女の話は感情に翻弄されてあちらへ飛びこちらへ戻り、自分を責め周囲を責めてもつれかえつていた。それを整理して二人で確認し、感情や行動のコントロールが容易になるように少量の鎮静剤を出した。以来、彼女は二週間ごとに来て日々の出来事を話していく。保育所のこと、近所の人のこと、姑たちと話したこと、自分の育つた家のこと。話題は次第に広がって、視界が開けていく。自分の中でそれぞれの事象の位置が決まってくる。短期間のアルバイトもした。しかし夫の話は出てこない。

彼女だけではない。菜の花に来る女性のなかには彼女同様、夫の影があまりにも薄いケースが多々ある。週末に子供をドライブに連れて行つてくれる人、という位置づけのケースもあった。姑の出先機関と認識されているケースも。家族の「生活」の中で夫は何をしているのだろうか。男は仕事、女は家庭とは今さら誰とも言わないだろう。名目上は男女同

に預けて菜の花へ来ている。「今日は私の日」彼女は自分でそう決めて診察のあとウインドウショッピングをしてコーヒーを飲んで帰っていく。彼女はまだまだ私に言わない。自分が離婚を考え始めていることを。私もまだ当分は聞かないつもりだ。

「さなだじゅんこ／菜の花診療所(医師)

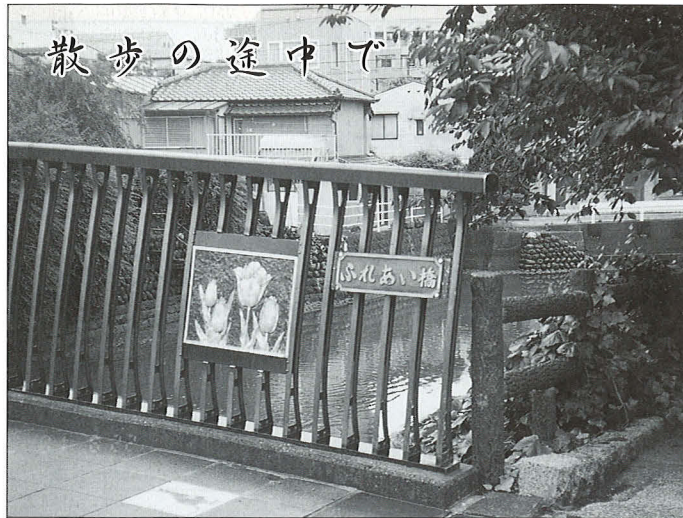


おんな三題

その一

真田順子





「何の写真を撮っているんですか」「おはようございます」カメラを構えるほんの短い間にも、気持ちのよい挨拶のことは何度も交わした。ここは文字どおりの『ふれあい橋』。格好だけの名前でないことはよくわかった。が、「ふれあい」「あったか」「やすらぎ」…。全国に数ある、時代の流行みみたいな名前はもういいのではないか。なによりそこに暮らす人々が、日々の生活の中でふれあい、やすらぎ、そのまちのあったかさを証明するのだから。

風伯

つもりちがい

るもつぢよよ。「ういじゅ」。

原文のままご紹介する。

高いつもりで低いのが教養

低いつもりで高いのが気位

行き付けの酒場の壁に、数力月前から、
〈つもりちがい十カ条〉という人生訓のよ
うなものが貼り出された。
これが読む人それぞれに思い当たるふし
があつて面白い。
「作者は？」と訊ねてみると、「原作者
は不明ですけど、あちこちに出回ってい

深いつもりで浅いのが知識

浅いつもりで深いのが欲望

厚いつもりで薄いのが人情

薄いつもりで厚いのが面皮

強いつもりで弱いのが根性

弱いつもりで強いのが自我

多いつもりで少いのが分別

少いつもりで多いのが無駄

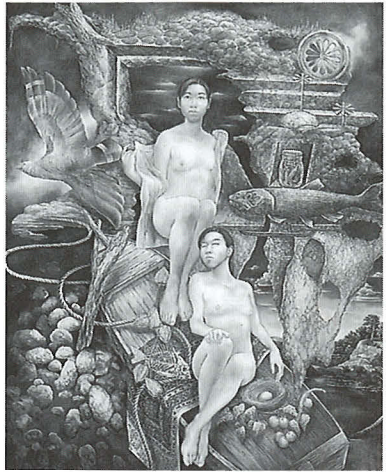
そのつもりでがんばりましょう

(一)

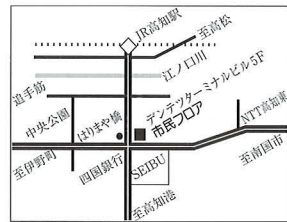
第25回市民フロア企画展

新世紀の風Ⅲ — 一井洋子展

高知大学西洋画専攻4回生の一井洋子さんの個展。昨年の県展で山脇賞を受賞し、勢いに乗る若手作家の油絵約15点を展示します。



2001/7/12(木)~7/22(日)
10:00AM~6:00PM 会期中無休
はりまや橋デンテツターミナルビル5階



今号の表紙

「窓」 泉谷栄理子
光。風。空気。自然のもつエネルギーを常に肌で感じとるもの。
人。季節。時間。移りゆくものを常に眺めているもの。
私の中にその「窓」は存在するのだろうか。自分の中に漠然とある「窓」を表現してみた。
けっこう ここから見えるもの
好きかもしれない
(いづたにえりこ)



高知を撮る ぐさ 蘭草干し (昭和28年頃 春野町) 近藤輝代彦
第17回写真コンテスト入賞作品
イグサを乾燥させるのに、夏の海岸での作業が夜明けより日暮れまで続く。もちろん昼食もこの場で。簡素な日除けに彼らの憩いの楽しみが待っている。

外国風テーマパークのブームも、どうやら下火になったようである。所詮は疑似体験、本物に似れば似るだけ、見たあとにわびしさが残るに違いない。「本家」の「だよ」と言つて「元祖」のマンジュウを食わされた時の後味に似ている。
観光客もそれなりに場馴れしてきて、本物と偽物を嗅ぎ分ける鼻を持つようになつてきた。そのような観光客を呼び込むためには、自然の海岸を潰して公園やマリナを作ったり、郊外にレジャーランドを作つたりするのはなく、さりげなく、その土地の特徴がにじみでるような舞台装置を作るこそ肝要である。
その意味で、高知駅前の電車線路のつけがえは近來のヒットである。駅を出るとすぐ前に、南国の陽を浴びてチンチン電車が待っている。なかなかの導入部である。

それに反して、街路樹のワシントンヤシはただだけない。「南国」を強調したい余り、自生もしていない「南洋」

チンチン電車とハマボウ

風俗歳時記



の樹を植えるのは「悪女の深情け」と言われても仕方あるまい。
そうでなくても都会には、土佐の間はヤシの葉陰で年中鳴子を持って踊っているくらいに考えている連中もいる。そんな輩の頭を冷やすためにも、少なくとも都市の玄関には由緒正しい街路樹を植えねばなるまい。
土佐らしい樹としては、ヤマモモ、クスノキ、オウチ(センダン)、ハマボウなどが頭に浮かぶが、街路樹としては、それぞれ一長一短である。このうちハマボウはもともと海浜植物で、鮮やかな黄金色の花が美しい。かつては高知市付近の海岸線にもところどころに自生していた。嬉しいことに、この樹は空港から55号線までの間に植えられる。花期が短いのは残念だが、考えてみれば、サクラも同じである。高知市の玄関口にはふさわしい花で、ぜひ植えてほしいと思う。海辺に堤防や道路を作り、自生のハマボウをほとんど消滅させた罪ほろぼしのためにも。
(略)



高知市文化プラザ

かるぽーと

〒780-0832 高知市九反田2番1号
TEL・FAX(088)×××-××××

市民ギャラリー 概要と使用のご案内

第1展示室

490㎡ (間口14m×奥行35m×天井高6m)、展示壁面延長170m

第2展示室

490㎡ (間口14m×奥行35m×天井高6m)、展示壁面延長173m

第3展示室

256㎡ (間口29.5m×奥行7.5~10m×天井高6m)

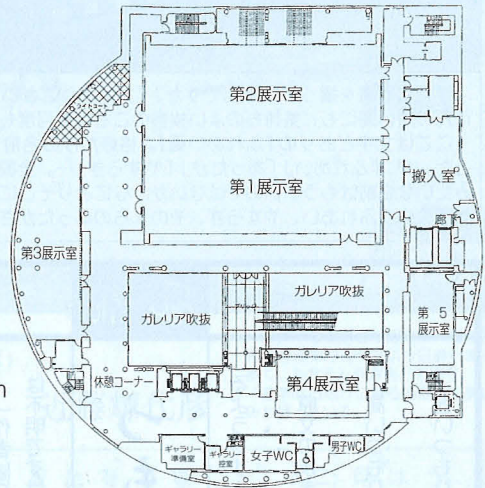
壁面展示はできません。

第4展示室

111㎡ (間口13.5m×奥行9.2m×天井高4m)、展示壁面延長64m

第5展示室

88.4㎡ (間口13.4m×奥行6.6m×天井高4m)、展示壁面延長39m



●申し込み方法

使用予定の前年度の8月1日から8月31日までに、翌年度一年間の申し込みを一括して受け付けます。所定の「仮申請書」に必要事項を記入のうえ、主催者及び展示会等の内容に関する資料（企画書、過去に実施した際の資料・写真等。様式は問いません）を添えて、お申し込みください。
日程調整後、「使用許可申請書」を提出していただきます。
日程調整後は、随時使用の申し込みを受け付けます。

●使用料

基本使用料は以下のとおりです。ただし、使用目的・内容によって使用料が異なることがあります。

区 分	基本使用料 (午前9時から午後7時までの利用)	時間外使用料 (1時間につき)
第1展示室	30,000円	3,000円
第2展示室	30,000	3,000
第3展示室	16,500	1,650
第4展示室	8,000	800
第5展示室	5,700	570

◎詳しくは文化振興事業団へお問い合わせください。